

冬を楽しむ～雪像づくり～

ここがポイント

グラウンドでミニ雪まつり

1年生「ふゆを たのしもう」の学習は、冬の校庭や公園で遊ぶことを通して、遊びのおもしろさや自然の不思議さ、季節の変化に気付くことをねらいとしています。1年生は、グラウンドで「ミニ雪まつり」を開催し、友達と協力をして雪像づくりを行います。

今回は、三つのポイントを紹介します。



ここがポイント

友達と計画を立て、協力をしてつくる

雪像をつくるとなると、1年生の子ども一人の力では、時間がかかったり雪を固めるのに苦労したりするなど、色々な難しさが考えられます。



そこで、雪像を数人のグループで作成することにしました。まず、イメージを共有するためにグループの友達と作成する雪像の計画を立てました。「どんな雪像がいいかな。」「僕は、こんなものをつくりたいな。」と話し合いをしたり、実際に絵を描いてみたりすることで、イメージを共有することができました。

また、事前に計画を立てることで、「上手くつくることができそうだ。」「早くグラウンドでつくりたいな。」といった雪像づくりへの興味・関心が生まれていきました。そして、「どんな道具が必要かな。」「こんなパーツを作る必要があるね。」と、事前に準備をすることもできました。寒さや時数の関係で、グラウンドでの活動を長時間はで



きないため、事前の計画や準備がとても大切です。また、教師主導ではなく、子ども主体の活動とするためにも大きな役割を果たしていると言えます。

広い場所と雪があれば、子どもたちは楽しく遊べるものです。教師は、子どもたちが防寒対策をできるようにして、安全に楽しく遊べるように注意しましょう。

気付き！

雪像づくりのねらいは、立派な雪像をつくることではなく、雪像づくりを通して遊びのおもしろさや自然の不思議さに気付いていくことです。子どもたちは、実際に自分の手で雪像をつくることで、雪の不思議さに気付いていきます。「この雪は、何だか固まりやすいね。」「なかなか高く積むことができないな。」など、対象である雪との関わりを繰り返すことで、雪の性質や特徴に気付いていきます。

また、活動の中で色水（水道水に入浴剤を混ぜて着色したもの）を用いて雪の色付けも行いました。「思っていたよりも違った色になるんだね」「少しだけ入れた時は、だんだん染みていくね。でも、なかなか色が付かない。」と、雪ならではの感覚を楽しみながら、気付きの質を高めていきました。



Active

完成した雪像を他の学級の友達と見合う時間を設けました。子どもたちは、「たくさんの雪像があって、おもしろいね。」「次は、あっちの雪像を見に行こうよ。」と、より『ミニ雪まつり』らしさを感じることができました。

この経験は、2年生で行う学習（例えば、1年生との雪遊びの交流や雪まつり探検）につながることができます。

また、「違う組の友達が、僕たちの雪像をすごいって言ってくれたよ。嬉しいな。」「この組の友達は、こんな雪像をつくったんだね。上手にできているな。」と、お互いによさを見付け合うこともでき、みんなで遊ぶことの面白さにも気付くことができました。



おもちゃづくりとは違った遊びのよさを感じることで、「冬は、雪が降り積もることで、こんな遊びもできるんだね。」と、季節の変化を感じるだけではなく、その季節ならではの面白さにも気付くことができます。